

袋の町に眠る家、畑、山を 多世代みんなで呼び起こす

…袋板屋☆若者が暮らしたい街をめざす会【石川県金沢市】



団体設立経緯

人口減少とともに進行してきた過疎化は今、袋板屋のような都市近郊でも顕著になりつつあります。郊外の小集落からは年々若者が出て行き、町の未来が思い描きづらくなってきました。今後、立地適正化計画等による都市の集約化が進められていく時、都市部でも遠隔地でもない袋板屋のような「間の場所」における暮らしにどのような豊かさを見いだすことが出来るのか、若い人たちが暮らしたいと思うコミュニティとは何かを考えることが、町民にとって自然と重要なテーマとなり、袋板屋町のまちづくりは始まりました。

地域概要

金沢駅から湯涌温泉方面に15分ほど車を走らせると、袋板屋町が見えてきます。人口120人ほどの小さな集落は四方を豊かな自然に彩られています。ここは観光名所でもなければ、ザ・田舎まちというほどの風情漂う風景が広がる場所でもありません。板屋兵四郎という、辰巳用水を開いたことで有名な江戸時代の加賀藩の土木技師にゆかりのある場所です。少子高齢化が進み、耕作放棄地が年々増えています。

活動に至った背景や理由

2016年1月10日に団体を設立する以前、2015年の9月と12月に全国の学生を対象とした地域滞在型地域づくりワークショップ「Community Stay Meeting」を開催しました。このワークショップを通じて様々な魅力的な地域づくりのアイデアが出たと同時に、地域内外から予想以上に大きな反響を得たことから、2016年度は、やれることからアイデアを実現していこうという機運が高まり、活動の構想の具現化と実施にいたりしました。

設立年月 …… 2016年1月1日
メンバー数 …… 130人
代表者名 …… 宮村 昭夫(みやむら・あきお)
連絡先 〒920-1144 石川県金沢市袋板屋町ヲ1-1
電話 090-9768-4818
メールアドレス fukuroitaya@gmail.com
ホームページ <https://www.fukuroitaya.jp/>
facebookページ
<http://www.facebook.com/fukuroitaya/>
<団体のミッション>
私たちは、人口減少・都市集約社会において、都市近郊部の極小のコミュニティが地域の環境や文化を絶えさせることなく、いかに継承・発展させていけるかについて、全国の学生たちと協働して考え、実践しています。



活動内容と成果

「家」:古民家空き家を新しい地域の拠点として再生し、みんなで集まる

袋板屋町に存在する地域住民所有の古民家空き家を、住民・子ども・全国の学生が集うことができる、地域再生活動の新しい拠点として整備する構想です。歴史ある建物の魅力を活かすため、最低限の修繕とし、作業は住民・子ども・学生の協働によってワークショップ形式にて段階的に行い、実施体制としては、地域の住民有志、子どもに加えて、これまで行ったワークショップに参加した50名弱の全国の学生に参加を呼びかけて実施するというプロジェクトです。

しかし、整備費の準備に課題が残り、当初描いていた具体的な整備には至ることができなかったのですが、2016年12月に行ったワークショップ「袋の家」というテーマで2泊3日のワークショップを行い、袋板屋に多く存在する「空き部屋」を活用した暮らし方、空き家を活用した地域づくり拠点・ゲストハウスの運営、AirB&Bなど、多角的なアプローチで様々な人が袋板屋に暮らすきっかけづくりに関するアイデアを皆で考えました。最終日には、学生にシミュレーションとして書いてもらった「袋板屋町移住届」の内容について一人一人プレゼンテーションをしてもらい、その後、地域住民と学生が全員地域住民になったつもりで「学生が袋板屋町に住み始めた時に懸念となりそうな問題は何か」、「その問題を解決するためのアイデア」、「学生が地域に暮らし始めるためのアクションプラン」について議論をしました。実際に学生が暮らし始めることを前提としたリアリティーのある話を進める段階になって、初めて出てくる論点・課題・新しい展開の可能性が、ディスカッションを通じて明らかになりました。



「畑」:耕作放棄地をバーベキュー基地として再活用し、みんなで食べる

現在、袋板屋町の4割の田畑は耕作放棄地となっていますが、すぐに耕作を再開するのは困難な状況にあります。これら耕作放棄地の内、湯涌街道沿いにある、人々が集まりやすい耕作放棄地をバーベキュー基地として簡易整備し、隣接する畑でとれる季節折々の地元野菜をもぎたてで焼いて食べる経験を、地域内外の人々に提供する構想を立てました。実施は、近隣の大学生および地域の農家が密接に協力して行い、実施後は、バーベキュー以外にも、キャンパススペースやスポーツグラウンドなど、耕作放棄地の暫定利用形態として効果が見込まれるアイデアを検討していきます。

このプロジェクトについては、2016年9月のワークショップにて、耕作放棄地の再活用イベント、「コーサクホーキッチン」を行い、準備から開催・運営までを全国から集まった学生と地域住民の協働により実施しました。袋板屋町にある約300平米の耕作放棄地をバーベキュー場に簡易整備し、フライヤーやフラッグ等を作成して広報活動を市内外に対して行いました。当日は私たちの予想を超える130名程度の来場者が地域内外からあり、地元の旬の野菜やジビエ(イノシシ等)をバーベキューで楽しんだり、地域の竹でつくった流しそうめんを楽しんだりしました。このイベントを通じて、多世代・多地域の交流を行うことができたとともに、耕作放棄地の現状についても多くの方に理解していただくことができ、大好評を得ることができました。この「コーサクホーキッチン」のイベントは、今後定期的に継続させながら、耕作放棄地の利活用のメニューを少しずつ増やすとともに貸し農園等による耕作の再開も実施していけるような企画を考えていく予定です。



「山」:50年前まで通学路として使われていた炭窯道(すんがまみち)を再開通させ、みんなで歩く

かつて袋板屋町にある山や森は里山として利用されていましたが、現在では荒廃が進み、山道には草木が生い茂り、通行が出来なくなってしまいました。また、人が山に入らなくなったことにより獣害が増加しています。かつての里山の利活用の第一歩として、かつて通学路として使われていた「炭窯道(すんがまみち)」と呼ばれる山道を、住民・子ども・学生の協働により再開通させ、通れるようになった山道を地域の小学校における環境学習や、住民の健康を促進させる散歩道、山菜採りワークショップなど、様々なかたちで活用するというプロジェクトです。

このプロジェクトを実施するため、ワークショップを開催し「すんがまみち」の再整備を全国から参加してくれた学生と地域住民の協働により行い、再開通した山道を皆で歩き、山の中でバーベキューを行うというイベントを行いました。再開通式には、地域の小学生も多数参加し、地元こんな綺麗な山道があるなんて知らなかったという声も多数聞かれました。イベント後は、この山道を地域住民が日々の散歩に利用するなど、新しい日常の風景が生まれつつあります。その後のワークショップの度に、定期的に住民と学生でこの山道の手入れをしています。今後は、他にも存在する使われなくなってしまった山道を再生し、ネットワーク化する構想を進めています。

「担い手の育成」:地域の小学校で大学生による環境教育プログラムを実践し、みんなで学ぶ

袋板屋町では少子高齢化が進み、地元の小学生が通う東浅川小学校では生徒数が少ないため複式学級によって授業が進められています。地域コミュニティの活性化と地域文化の存続にとって、将来の地域づくりの担い手の育成は、まちづくりを長期的な視点で見るときに不可欠です。このため私たちは、小学校の土曜学級の時間を使って、全国の大学生がこの地域ならではの環境教育を考え、授業を地元の子供に提供し、環境教育と地域づくりを連動させることで、次世代の地域づくりの担い手を育成するというプロジェクトを考えました。

このプロジェクトについては、前述した「すんがまみちの再開通イベント」や「コーサクホーキッチン」のイベントに小学生を招待し、大学生との交流を行った他、小学生のライフスタイルや地域環境への認識に関するインタビュー調査を行いました。

これらのイベントを開催している中、袋板屋町の子供達が通う東浅川小学校に関して統廃合が検討されているという新聞記事が、2016年秋に掲載されました。そのため現在、小学校との連携授業に関しては、プロジェクトの方針を変更し、統廃合されたあとの小学校校舎の利活用に関するワークショップ等の企画を検討しています。



課題と解決策

活動を始めて1年半がすぎ、学生や地域外のネットワークは順調に広がってきたのですが、一方で袋板屋町の地域内住民の活動の輪がなかなか広がってきませんでした。身近な地域内での情報発信、情報共有が疎かになると、一番重要な地域内の協力者が増えてきません。そこで、プロジェクトのウェブサイトを作成し、地域の人を巻き込む活動として、学生による家庭訪問を毎回のワークショップで行います。また、袋板屋町が属する東浅川地区(学校区)に声をかけ、協力者を募る予定です。これまでは、家、畑、山という軸でプロジェクトを進めてきましたが、3つのカテゴリーの一貫性が分かりにくく、活動の効率も悪くなってしまっています。2017年度からは、袋板屋で生産されている飯米を活用したオリジナルの日本酒づくりを石川県の酒造メーカーと進めることで、これまでの家、畑、山の活用を日本酒づくりという具体的な目標・事業をベースに考えることができるようになり、プロジェクトの実効性が向上すると考えています。

今後の予定

2017年度は、山の中の音楽祭や、小学生への環境教育の実施等、これまで行ってきた学生ワークショップを継続させながら、新しいプロジェクトとして日本酒づくりプロジェクトを立ち上げ、推進していく予定です。また、行政ともより一層連携し、昨今の都市計画法の改正(田園居住地区の創設等)や金沢市の都市計画の動向を踏まえ、袋板屋町のような市街地に近接する市街化調整区域における新しい地域づくりを検討し、実施していく予定です。

